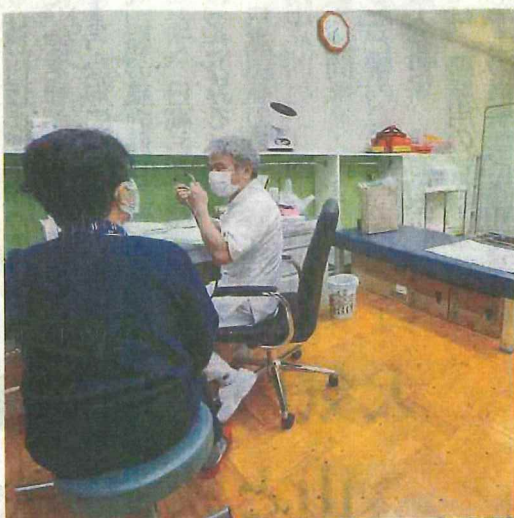


# 診療所老朽化 小学校に移設

## 知内町長「地域医療守る」

【知内】渡島管内知内町は3日、老朽化する町立湯の里診療所を、2023年3月末で閉校する町立湯ノ里小の空き教室に移して診療を再開した。地域医療を守るため、閉校を待たずに移設した。道教委によると、医療機関を併設した小中学校は「聞いたことがない」としている。

(久保吉史)



湯ノ里小の空き教室に移り、診療を再開した湯の里診療所

1894年(明治27年)開校の湯ノ里小は、鉄筋コンクリート造り2階建ての

現校舎が1993年に新築されたが、全校児童は7人で生徒数減を理由に閉校す

る。診療所は空き教室となつた3部屋分の210平方

を町が約60万円かけて改修。診察室と待合室、受け付け用の事務室を設けた。校舎裏手に入り口があり、学校部分とは分離した。亀田北病院(函館市)の原田直樹(内科医58)が毎週金曜と土曜に診察し、患者は1日十数人、月約100人を見込む。

湯の里地区には高齢者を中心に約440人が暮らす。診療所は1961年、国立函館病院の付属診療所として開所し、93年に町立診療所となった。湯ノ里町内会館の2階にあり、住民

からは「冬は水道管が凍るほど寒い」と移設を求める嘆願書が寄せられていた。西山和夫町長は「診療所は地域の大事な拠点。保護者や教育関係者から理解をもたらした」と移設を決断し、道が許可した。

湯ノ里小の卒業生で3日に診察を受けた森谷正彦さん(78)は「古くて寒かった診療所と違い、学校の中は暖かい」と話し、湯ノ里小の佐藤強校長は「閉校後も町民が集う場所となり、校舎を未永く活用してほしい」と期待を込める。